

本年度の重点目標と学校評価

本年度の重点目標	『意志あるところに 道は開ける』 自己理解、目標設定、正しい努力		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策 (取り組み事項)	留意事項 (評価方法等)
総務部	防災教育の充実と教員の多忙化解消に向けた情報の共有と業務の再検討を図る。	・防災マニュアルの改訂 ・避難訓練の更なる工夫 ・帰宅困難生徒の対策 ・業務の再検討 ・各情報の共有と各業務のマニュアル作成による負担の分散を図る。	・災害の発生を前提とした、より実践的なマニュアル作成を検討するとともに、より臨機応変な対応を迫る訓練を工夫する。 ・帰宅困難者の実数調査の仕方や各家庭による対応の仕方の調査を検討する。 ・誰が担当になっても、業務内容が簡単に理解でき、運用できるようにマニュアルを工夫する。
教務部	・主体的・探究的に学習に取り組む態度を育成する。	・授業参観週間に合わせて研究授業を実施し、相互に授業改善を図る。	・担当教科にかかわらず、横断的に授業参観をすることで、全教員が相互に研鑽を積み、授業力を高め、生徒に「主体的・探究的に学習に取り組む態度を身につけさせること」を意識した授業展開を目指す。
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立 いじめの未然防止に係る取組の充実	・継続的な立番指導による挨拶指導を実施。 ・学年と連携して段階的な遅刻指導を実施。 ・規範意識を醸成するため、普段から身だしなみについて声かけをしていく。 ・学期に1回いじめアンケートを実施。 ・学年集会やHRでいじめ防止の話を実施。	生徒指導部が立番指導時や校内において、積極的に生徒に声かけをし、全職員でこまめに生徒に声かけしていく体制を構築する。 生徒の些細な変化を見逃さないよう、全職員が丸となって生徒との信頼関係構築に努める。
進路指導部	進路実現に必要な確かな実力を身に付けさせる。	模擬試験の結果、入試改革に関する情報を収集し、多面的に分析して、発信・共有する。	・模試の結果を速やかにまとめ、職員間で情報を共有する。 ・入試改革に関する研究会等に参加し、有効な情報を収集、発信する。 ・進学校として指導するべきことを、全職員で共通理解を図る。
特別活動部	生徒会行事や部活動、委員会活動への生徒の積極的参加を促す。	・生徒会行事や委員会活動、HR活動、部活動に主体的かつ積極的に関わる姿勢を促すとともに、生徒の自己肯定感を高める。	・さつき通信（生徒会新聞）を発行し、活躍している生徒や部活動等を積極的に取り上げ、全校生徒や保護者等に向けて発信する。御津高校の仲間たちによる校内外での取り組みや貢献を紹介し、周知を図るとともに興味関心を高める。 ・表彰生徒を集会等で紹介する。

項目（担当）	重点目標	具体的方策 （取り組み事項）	留意事項 （評価方法等）
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主性をもった健康生活をおくれること、主体性をもった環境美化活動に取り組めること。 開かれた相談室経営と教育相談システムの構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりなどで情報を発信し、健康への関心を高めさせる。 日常では清掃用具の整備、委員によるトイレ点検などを行い、清掃週間では重点項目を示していく。 担任や学年主任との連携を密にする。相談室便りの発行。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任による毎朝の健康観察もひきつづき実施し、HR 活動の中でも健康生活に触れた指導がなされるよう働きかける。 清掃監督と美化委員の連携をすることにより、特にトイレ清掃では年間を通して意識がもてるように働きかける。 相談週間での全生徒との面談で、相談室の存在を理解させる。 スクールカウンセラーとの連携を密にし、学年会や担任と有機的に問題解決に図る。
国際教養部	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化背景の物や人々と触れ合う場を提供し、異文化に対する関心を高めると共に、英語による総合的なコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語集中合宿や異文化体験発表会のような本校独自行事や、留学生受け入れなどを通じて、異文化に積極的に親しみ知ろうとする態度や、英語でコミュニケーションを図ろうという姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学募集やホストファミリー募集を積極的に呼びかける中で、どのような条件が必要かを明文化させていく。 国際教養部が主催・関連する行事で、準備で行ったことを記録し、いつまでに何をどうすべきかのマニュアルを継続して作っていく。 国際教養科の生徒だけでなく、普通科の生徒も留学生と触れ合えるように、留学生・本校生徒相互へ積極的なコミュニケーションを呼びかける。
1 年学年会	本校生徒としての生活習慣の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 集団規律を守らせるとともに、文武両道にしっかり取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、時間を意識させ未来を見通した生活習慣を身につけさせる。提出物は、期限を厳守させるように粘り強く指導する。
2 年学年会	将来の進路実現を見据え、自ら考え、積極的に行動する姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行など学校行事や部活動（幹部として）などにおいて、自主的に考え、具体的に行動する場面を設定する。 学校生活のあらゆる場面を通じ、進路目標を具体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中堅学年として、学校の中心的な役割を担うことを意識させる。 進路の行事だけでなく、日頃の授業や総合学習でも常に進路目標を意識させる声掛けを行い、その実現のため前向きに学習に取り組ませる。
3 年学年会	進路目標実現に向けて、自己発信できるような体制を作らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 十分な進路研究を支援し、具体的なアドバイスをする。また、学習時間の確保と適切な学習方法を指導し、各自の持てる力が発揮できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談、LT、総合学習、学年集会などにより、最新の進路情報を確保させる。その上で、各自の進路研究を充実させる。また、個別の学習時間を3年生としてふさわしいものへと導く。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の充実と生活指導の徹底 いじめ防止基本方針に基づく取り組みと防止対策 適切な進路指導と部活動の両立 安全衛生活動の推進と適切な勤務時間とメンタルヘルス 多忙化解消対策と年次休暇の計画的使用の促進 	